

こけしの絵付け

国立花山青少年自然の家

《準備するもの》

団体：こけしの木地(売店で販売しています) 布きれ 新聞紙
 自然の家：絵付け用染料(黒・紅・緑) 筆(大小あります) 小皿 ろう

◎こけしの歴史

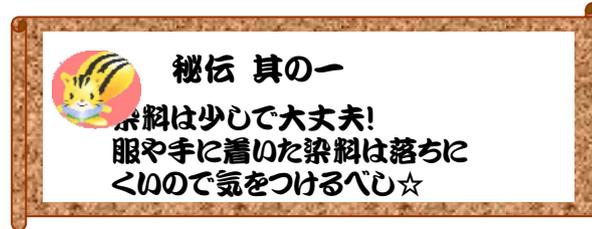
東北の温泉地で江戸末期から大正初期にかけて湯治客にお土産として売られた木製の人形玩具が始まりで、木地師(きじし)と呼ばれる人達がロクロを回し木を削って作りました。こけしは、木で削った、あるいは小さな芥子人形の意味で「子消し」ではない。

◎鳴子系こけし

鳴子こけしは、胴が太く、肩と襟が張り、中央部がややへこんだ安定感のある形状で、頭ははめ込みで、回すとキイキイと鳴るのが特徴です。

1. 活動準備

- ①色ごとの筆を配ります。
- ②1つのグループに小皿を3枚ずつ配ります。
- ③染料をほんの少しずつ分けます。
- ④こけしの木地を配ります。
- ⑤新聞紙を敷きます。



2. 実施例

《顔を描く》



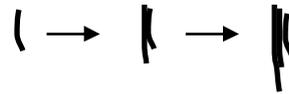
- ①まゆ毛
- ②まつ毛
- ③目
- ④鼻
- ⑤口
- ⑥びん(もみあげ)

*絵付けする時は、頭部と胴部の接合部分をもちます。

*口は小さく紅で描きます。

*色ごとに決められた筆を使って絵付けします

*びんは内側から外側へ描いていきます。



《頭を描く》



- ①前髪
- ②後髪
- ③かんざし

*かんざしは紅の染料を使います。

*黒の染料が乾いてから着色します。

《胴を描く》



- ①菊模様を描く
(鳴子こけしの胴模様は、菊を中心としたものが基本です。)

*花は紅で中心に向かって筆をはこびます。

- ②葉を描く

*葉は緑の染料を使います。



秘伝 其二

どんな模様でもよし! 自分の好きな絵を描いてね。
でも筆は色によって使い分けをべし☆

《ろうぬり》



- ①ろうぬりは、全体に均一にぬります。

*ろうぬりは、染料がよく乾燥してから行います。

《つやだし》



- ①光沢がでるまで布きれでよくみがきます。

*ろうをぬると染料を弾くので、ろうぬり後は着色できなくなります

- ①完成

- ②後片付け

*残った染料は捨て、小皿をよく洗います。

*筆はよく洗い、色別(黒・紅・緑)に分類します。

*活動した場所を掃除します。

